



ようこそ！オッシさん！

8月7日、トゥエッティ・シアオシさんが新しいALTとして磐梯町に配属されました。なんと、身長が198cmということで、みんなが見上げて話す感じになります。

愛称は「オッシ」さん。バスケットボールやラグビーが得意だそうなので、放課後一緒に身体を動かしてコミュニケーションが取れるかもしれませんね！役場のみなさんの前では、ご自身の字で書かれた「ひらがな」のスピーチ原稿を読まれていました。

お会いした際には気軽に声をかけてあげてください。



8月に取り組んだこと



NZに向けて、イングリッシュキャンプ開催

8月2日、ニュージーランドの語学研修に参加する中学2年生が、1日英語のみで過ごす「イングリッシュキャンプ」に参加しました。ゲームやアクティビティを通して楽しく英語に触れたり、みんなの前で英語で発表をしたり、いろいろな経験ができたようでした。11月の出発までに全9回事前学習も予定しています！



グラデーションセンター主催：オンラインセミナー 「多様性の包摶と授業UDの基本的な考え方」開催

8月19日オンラインによる「授業のユニバーサルデザイン（授業UD）」に関する教職員向け研修を開催しました。授業UDは、磐梯第一小学校の特色ある取り組みの1つでもあります。講師は熊本大学教授の菊池哲平先生にお願いし、授業UDの基本的な考え方について学んだことでこれまでの取り組みを振り返るきっかけになりました。



日光月光菩薩像について会津工業高校で学びました

8月26日に会津工業高校にて、薬師如来像を護る脇侍像日光月光のデザインをされた小島久典さんのお話を高校生と共に伺いました。また、高校生が現在取り組んでいる3Dプリンターでつくりつつある日光月光像も拝見しました。「失敗を繰り返しながらつくることを許されている環境がありがたい」という言葉は、デジタルでのものづくりも簡単なことではなく、試行錯誤の先に作品がつくられるのだと感じることができました。



地域おこし協力隊として新しい仲間が参画しました

7月1日より、新たにまなびときばんだいに地域おこし協力隊の小林由季さんが参画しました。（先月号でご紹介しそびれてしまい遅くなり申し訳ございません！）

まなびときばんだいで、小中学生と一緒に勉強したり遊んだりおしゃべりしたりしながら、放課後の居場所づくりを推進してくれています。この2ヶ月で彼女の口から「子どもたちと関わるのが大好きなので」という言葉を何度も聞きました。楽しみながら活動をしてくれていますので、ぜひともみなさんもまなびときばんだいへおしゃべりしにいらしてください！



部活の地域展開と「えらべる放課後」の実現に向けて 〈その1〉



磐梯町では中学校部活動の地域展開について、令和8年度には土日の活動に関して完全地域展開を目指しています。しかし、土日の活動だけ地域展開されたとしても、教職員の働き方改革にはさほど大きな影響を及ぼすことにはならないのが現状です。また、現在平日の部活は週4日で活動し、基本的にはクラブチームなどに所属していない場合は学校の部活動に入ることになっています。しかし部活動の種類は少なく、「好きな活動を選ぶことができる環境か」と考えると、少し難しい状況でもあると言えます。

子どもにとっても、大人にとっても、少しずつ無理が生じている部活動の仕組み。まずはPTA会長・副会長のみなさんと、「どうしたら、誰にとってもよりよいものになるか?」について8月6日に話し合ってみました。

部活の地域展開の目的



急激な少子化が進む中においても、
将来にわたって生徒が継続的に
スポーツ・文化芸術活動に親しむ機会を
確保充実していくことが改革の主たる目的

by 地域スポーツ・文化芸術創造と部活動改革に関する実行会議

部活の地域展開でめざすこと



「子どもたちが等しく
多様な学びと体験に触れられ、
子どもたちの心の居場所ともなる環境を
整備することが何より重要である。」

by 地域スポーツ・文化芸術創造と部活動改革に関する実行会議

はじめに部活動の目的と目指すべきことを確認し、磐梯町の現状についてそれが知っていることを共有しました。そこで意見として出たことは、「まずは子どもの声を聞くこと」。子どもたちはどんな放課後を過ごしたいと思っているのかを知ることが大事であり、それはどのようにしたら実現できるのか?を子ども自身も考え、大人もその実現のために何ができるかを考え、というところから始めたいということでした。そして、それらをもとに「どんなクラブチームが隣町にあるのかを知ることができるようになるには?」「地域の人たちが運営する【地域クラブ】を増やすには?」「中学生だけで隣町に移動できる手段を確保するには?」「短期間でも指導者として関わってくれる人を増やすには?」などの問い合わせを持つと、アイデアがたくさん出て来ましたので、できることは全部やっていきたいと思います。

これを受け、9月には直接中学生の声を聞きに中学校へ伺う予定ですので、またご報告いたします。

「健全な境界線」について考える 〈子どもたちの放課後の安全と責任〉

登下校時の子どもの安全に関する責任は誰にあるのか

8月の学校運営協議会では、登下校時の子どもたちの安全を守るためにどうしたら良いか、ということをテーマに話し合いました。法的に考えると「登下校時の子どもの安全についての責任は家庭」にあります。しかし現実は、家庭と学校(学童)と地域とで支えており、家庭だけに委ねるのではなく「みんなで考えていくべきこと」だと考えます。ただし、そのためには「健全な境界線」について整理する必要があります。

「健全な境界線」は人権を守る

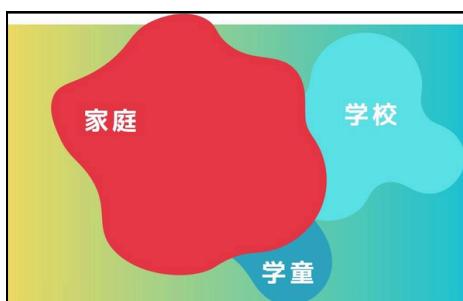
家庭が学校(学童)がやるべきことを超えて過度な要求をすることでお互いの役割が不明確になったり、学校が(よかれと思って)家庭が決めるべきことに口を出し過ぎたりすると、お互いの人権を守ることが難しくなることもある、ということを確認してから意見交換をおこないました。それは、「健全な境界線」はどうしたらつくることができるのか?ということを考える時間になりました。

いろいろなアイデアが出て来た中には、「バスなどの交通手段を増やす」「子どもの居場所がわかるような通知機能を準備する」などの案もありましたが、「助け合ったり、理解し合う人間関係づくりが重要である」という意見も多く出ました。



わたしたち大人にできること

私たち大人にまずできることは、大人同士がおしゃべりをしたり遊んだりしながら、子どもたちを真ん中にして「みんなで子どもたちを育てていくこと」に同意していくことなのかもしれません。そして、そうやってお互いを知ろうとすることはそんなに難しいことではないですし、子どもたちに大人のそういう姿を見てもらいたいなと感じています。



みなさんの考える「健全な境界線」に近いイメージ図はどちらですか?

8月のできごと

8月は、夏休みにしか見られない子どもたちの姿も多く見られました。お伝えしたいことがたくさんありましたよ！

夏祭りで「おみせやさん」にチャレンジ

8月13日の磐梯町夏祭りで、「おみせやさん」を出すことにチャレンジした小学生がいました。これは地域学校協働活動のひとつとして希望者を集めて準備を進めてきたものです。子どもが実現したいことを、大人はあくまでもサポートする形で進めました。実際にお金を稼ぐ経験ができたことは大変有意義だったようです。来年も楽しみですね！



熊鈴をご寄付いただきました

8月29日に、ばんだい振興公社より小中学生全員に向けて熊鈴をご寄付いただきました。熊対応に苦慮している中で、大変ありがとうございました。各学校ではすぐに配布されチリンチリンと鳴らしながらの登下校が始まっています。



じぶんでえらび、じぶんをつたえる

2学期がはじまって子どもたちの顔を見に幼稚園へ行ってきました。ちょうど給食の配膳の時間に聞こえてきたのは、先生が子どもたちひとりひとりに「どれくらい食べる?」「ブロッコリーは?」「もっと?」などと問い合わせながら盛り付けている声でした。子どもたちは「ちょっといい」「もっとほしい」と答えながら先生と楽しそうにやりとりをしています。先生は、「少しだけいい」と答えた子どもにも無理によそわらず、「食べてみてもうちょっと食べたくなったらおかわりしにきてね」と声をかけることもしていました。こうした、子どもたちの小さな選択を「ちゃんと受け止めてもらう経験」の積み重ねが色々な場面で日々おこなわれています。先生方の丁寧でやさしい声掛けも本当に素敵でした。

山門の葺き替え作業見学

8月5日、恵日寺山門の葺き替え作業中の屋根を子どもたち36名が見学しました。滅多に見ることのできない作業に子どもたちも興味津々でした。また、住職が子どもたちに本堂の仏像を見せてくださいり、説明もしてくださいました。子どもたちにとって大変良い機会となりました。ありがとうございました。



宿題カフェが開催

まなびときばんだいの夏休み企画で行われた宿題カフェ。8月は18日から22日で行われました。

勉強するだけでなく、ボードゲームや卓球ができる場にもなっていて、私も中学生と卓球をして楽しみました！



小さな町同士のつながり

8月は3つの町との交流がありました。埼玉県横瀬町・福島県大熊町・宮崎県新富町の方々が磐梯町にいらしてくださいました。

横瀬町からは4人の職員の方々が「旅する公務員」の交流として1週間磐梯町で過ごしながらリモートでの仕事もされていました。教育委員会にいらしてくださいました教育次長と保育士さんは会議や研修と一緒に参加し、お互いの行政の違いや似たことについて情報交換をしながら刺激を受け合うことができました。

磐梯町と連携協定を結んでいる大熊町からは、佐藤教育長はじめ課長もいらして、今後の交流をどのように深めていくかを相談し合う時間となりました。

昨年度のおわりに磐梯町から伺わせていただいた新富町からは、町長と教育長、振興公社の方々もいらして、学校見学や道の駅などを視察されました。

どの町とも同じような課題やそれぞれの強みを知ることができ、協力し合えることが溢れ出てくるやりとりが生まれました。こうしてお互いに行き来できる関係性をありがとうございます。

【文責】磐梯町教育委員会 教育長 中川綾

【ご連絡先】メールアドレス aya_nakagawa@town.bandai.fukushima.jp

(●を@に変更してお送りください)

